

9-2 安全衛生管理の新しい潮流

先取り安全

安全衛生管理の新しい潮流
災害ゼロから危険ゼロへ
「先取り型の安全管理の徹底」

1 危険予知活動(KYT)

その日の作業開始前に、当該作業に「潜む危険、想定される危険」を出し合い、共有し、要所での指図、呼称によって安全確認を織り込みながら行動するのが危険予知活動(KYT)その活動を支えるものとして労働者の危険に対する感受性を高める等の取組みを行う危険予知訓練(KYT)がある。現場において、毎日、目の前にする作業をターゲットにした安全活動として実効性があり、特に、作業行動面における対策の有効性が確認されている。

2 ヒヤリハット活動

ハインリッヒの「1:29:300の法則」において、結果としてケガのなかった事故300件の態様に注目した先取り安全の取組みの一つである。
「300件のヒヤリハット事故」においてケガがなかったのは、偶々たまたまの出来事に過ぎず、ヒヤリハット事故の再来を防止することが、職場における災害発生の危険性を低減、除去を図る「危険ゼロ」をめざす上で、重要である。

3 リスクアセスメント

労働者の就業に係る危険性又は有害性を調査し、リスクの大きさを客観的に把握し、(リスクの程度を比較出来るように数値化等の方法で)それを見積り、リスクレベルに応じて講ずべき対策を決めて低減対策を実施する。

先取り安全の手法としての「KYT, ヒヤリハット, リスクアセスメント」

わが国では、危険予知活動(KYT)が職場の風土にマッチングする場合における効果が確認されている(今後とも発展的継承が試みられるだろう)。

今後、職場における先取り安全の取組からは、ヒヤリハット活動(とくにヒヤリハット事例の収集)の重要性が増していくと思われる。KYT、ヒヤリハット活動及び法規に新設されたリスクアセスメント(労働安全衛生法第28条の2)の実施は、これからの安全活動の基本を構成していく可能性が高い。